

令和元年度第1回都市計画マスタープラン策定検討部会 会議録

1. 会議の年月日、開閉時刻及び場所

- (1) 会議の年月日 令和元年7月2日(火)
- (2) 開閉時刻 午前11時から正午
- (3) 場所 市役所4階401・402会議室

2. 委員の出欠

(1) 出席者

(委員) 嘉名部会長・東委員・佐藤委員・田中委員・松中委員・森岡委員
黒部委員・松尾委員

(事務局) 北田都市整備部長・有山都市計画課長・内蔵都市計画課課長補佐
浜田都市計画課主幹・南都市計画課技師
株式会社地域計画建築研究所 清水・中井・長谷川

(2) 欠席者

荒川委員

3. 会議の公開・非公開の別 公開

4. 傍聴者数 無

5. 配布資料

- (1) 会議次第
- (2) 委員名簿
- (3) 資料1 「次期生駒市都市計画マスタープラン策定検討の流れと視点について」

6. 次第

- (1) 開会
- (2) 副部会長の選出について
- (3) 次期生駒市都市計画マスタープラン策定検討の流れと視点について
- (4) その他
- (5) 閉会

7. 調査検討内容等

(1) 次第2 副部会長の選出について

- ・事務局から説明
- ・松中委員が副部会長に指名される。

(2) 次第3 次期生駒市都市計画マスタープラン策定検討の流れと視点について

- ・事務局から説明
- ・検討内容

委員 交通分野に関して、運転手不足など直近の課題と、自動運転など中長期の課題は分けて検討する必要がある。「コンパクト・プラス・ネットワーク」のネットワークの部分について、路線バス・鉄道路線の維持の方針をどのように計画して表していくか、特に路線バスについては、採算性などの問題から撤退ということも想定され、そうなった時に行政としてどう対応していくのか議論しておく必要がある。

住宅都市として定住意向の高さは強みだが、住宅市場の流動性が高く、新陳代謝やライフステージに応じた循環が盛んな住宅地があっても良い。

基礎調査に先立ち、行政による既往調査結果の洗い出しや、現行計画の策定から10年経ってどのような変化があるかなど、確認・整理した上で、今後の検討を進めていくのが良い。

委員 都市計画と人口政策をリンクさせることは非常に重要である。

生駒市の住宅都市としての評価の高さは、第1世代の頑張りによるところが大きいと思う。これを如何に次世代へつなげていくか。アンケートにより、住み替えの実態に加え、子どもの居住実態・Uターン意向の有無・どうしたところに住みたいかなど、次世代の住宅需要を把握できればと思う。

委員 30～40代の若い世代のまちづくり活動の活性化が重要であり、これにあたっては、楽しさをベースに考えないと若い世代はついていけない。そういったまちづくり活動を都市構造と合わせて考慮する、市民のニーズや暮らしを都市に反映させることが重要となる。自治会やボランティア、NPOの活動に加え、企業との連携は、地域包括ケアの分野においても重視されている視点であり、そのことも、都市構造を考える上で必要と思う。

委員 高齢者人口だけでなく、高齢世帯数や健康状態についての把握が非常に重要である。高齢化をポジティブにとらえ、高齢者の力を社会参加やまちづくりへの参加などに積極的に活かしていくことが必要である。

都市特性の把握にあたり、生駒らしさとは何かを考えた時、産業を考えるのも大切だが、住宅都市として、住むこと、生活を強みと捉える方が生駒らしいのではないか。残すべき既存ストック（古民家等の建築物、自然、音など、五感で良いと感じられるもの）の状況を把握し、発信することで市民の愛着にもつながる。

委員 住宅を作ったら人が来てくれる時代ではなく、生駒市の住みよさの把握とPRが必要である。大阪市内から15分程にも関わらず自然が豊かなのは強みである。

公共交通について、市内の連携が悪い印象を持っている。市街地を構成する竜田川と富雄川の2つの谷、これら東西の繋がりが弱く、奈良市の富雄駅や学園前駅を中心に通勤前提のバス網が形成され、生駒駅へのアクセスが困難な住宅地もある。

委員 まちづくりの目標は、どこのまちでもあてはまるようなものよりも、生駒らしさを感じられるものが良い。また、65歳以上を高齢者として扱っているが、地域によっては自治会活動の担い手がほとんど70歳以上であることを踏まえると、高齢者の基準を再検討することが必要ではないかと思う。

委員 南生駒駅周辺は、地域拠点として位置付けられているが、国道のバイパス整備の遅れ、駅前の狭い旧道、交通渋滞などの課題がある。南地区には、行基に関連する歴史など魅力がある一方で、休耕田が多いという課題もあり、例えば農業法人を呼び込むなどの切り口も必要かと思う。

部会長 説明のあった基本的な考え方については良いと思う。人口の分析は丁寧に行ってほしい。自治体の政策では居住人口を中心に考えるが、就業地や人口動態の変化も把握が必要である。たとえば、18歳から25歳の人口動態について、就職に伴う流出が顕著な市もあり、生駒市の場合は人口構成上どのような課題があるか、しっかり把握することが必要である。

高齢者を前期高齢者、後期高齢者と分けているが、健康寿命という概念があるように、分け方についての尺度や価値観を変えていくことも必要であると考えられる。

土地利用について、従来であれば市街化区域を中心に考えるが、これからの都市計画マスタープランでは、歴史・文化的資源を含めて生駒らしさ・魅力考えた時に、市街化調整区域も含めて丁寧に扱う必要がある。

生駒市は谷沿いに市街地が形成されており、水害、南海トラフ地震なども想定し、防災・防犯にしっかり対処できる都市構造を考える必要がある。

本日の議論では、

- ・生駒らしさについて、住宅都市としての利便性だけでなく、自然・歴史・文化などオリジナルな部分も含めトータルの魅力を打ち出していく
- ・通勤者の減少に伴い従来の奈良市に依存する都市構造を見直す
- ・交通について、バスの重要な路線の運行本数を維持するために、如何に周辺に暮らしてもらうか、地域の人が如何に支えるかを考えていく
- ・アンケートの実施にあたっては、聞き取りの機会もあるようなので、地域の歴史資源や魅力を把握できるような調査方法も必要
といった意見があり、これらを踏まえて議論を進めていきたい。

(3) 次第4 その他

- ・次回以降の開催予定について
第2回 令和元年10月16日(水) 午後
第3回 令和2年2月5日(水) 午後
第4回 令和2年3月31日(火) 午後